

だんだん寒くなり、もう冬の気配が随所に見られるようになりました。冬は病院にとっても大変な時間で、いつもベッドが一杯になってしまいます。今年はずでに数回、ベッドが一杯になり救急受け入れに支障が出ました。その様な時、いつも近隣の病院の皆様にはお世話になっております。私もつい先日、ある患者さまを富山国保病院さんへ入院受入して頂きました。ありがとうございました。

皆さまにおかれましても、大変な時期の到来となりますが、一緒に力を合わせて乗り越えていけるよう、ご助力をお願いいたたく存じます。いつもお願いばかりですみません。



地域医療連携室
室長 三河 貴裕

マイグム クロスバイク

皆さん、「クロスバイク」という乗り物があることをご存じですか？クロスバイクとはロードバイク(レース用)とマウンテンバイクを組み合わせたもので通勤や通学など、幅広く親しまれています。

初めて見たのは知り合いの家に行ったとき、倉庫の中にあり、ふと目にとまりました。そこで見たのは自分がイメージしていたタイヤが太く、山道を登降するようなものでなく、どちらかといえばレースに使用するようなものでした。

マウンテンバイクは山岳地帯、荒野(砂利・雨・泥道、急坂の登降、段差越え)など、広範囲の乗用に適応するためにつくられたもので、タイヤも太くなっています。

一方、クロスバイクは舗装路の走行に合わせてつくられたもので、タイヤも細く、価格もマウンテンバイクに比べ安価で、安いもので約2万円から購入することができます。

まずは通勤に、そしていずれは「関東制覇」を夢見る日々です。

440さん

TOPICS 開催予定の勉強会のご案内

- 第3回マインドフルネス勉強会
「生まれたことの意味 - 周産期から老年期まで -」
日程: 12/8(日)9:00~16:00
 - 栄養管理講演会
「がん悪液質・サルコペニアとリハビリテーション栄養管理」
日程: 12/17(火)18:00~19:30
 - ELNEC-Jちば
エンド・オブ・ライフケアを提供する看護師のための包括的教育プログラムです。
日程: H26/2/22(土)9:00~17:00
2/23(日)9:00~16:00
- * 詳細はプログラムを参照ください。

4. 褥瘡看護勉強会

- H26/1/31(金)18:00~19:00
テーマ: 褥瘡の病態について
- H26/2/28(金)18:00~19:00
テーマ: 褥瘡予防の技術(体圧分散)
定員: 20名
会場: 安房地域医療センター
講師: 排泄ケア認定看護師 佐藤理子

医療・介護・保険・福祉・司法・教育等
専門職 地域連携セミナーのご案内
日時: 12/8(日)13:30~18:30
会場: 亀田医療大学 学生会館
定員: 250名(無料)
* 詳しくは資料にてご確認ください。

「亀田医療大学大学祭」 - 亀田医療大学管理部総務課 広報担当 小原 美乃里 -



亀田医療大学管理部総務課広報担当の小原です。11月2日、3日の2日間に渡り学生による手作りの「第2回亀田医療大学大学祭」が開催されました。1日目は少々お天気に恵まれませんでしたでしたが、地域の皆さまには多数お越し頂き、ありがとうございました。

大学祭のイベントの中で、学生と共に地域の方たち楽しんで頂いたのが、看護体験だと思いましたが、看護体験には血圧測定、手浴、老年体験、妊婦体験、BLSなどがありました。どの体験も人気でしたが、中でも赤ちゃん人形の抱っこ体験では、女の子はもちろんのこと、地域の小学生男子たちに大人気!! 将来素敵なパパママになること間違いなしですね。その他、手浴では様々な年齢の皆さまから「気持ちいい～」と言って頂き、学生たちも、普段お世話になっている地域の皆さまに喜んで頂けて嬉しかったようです。

1日目には、「亀ママキッチン」初の一般公開となり、NHKで放映され話題となった学食を楽しんで頂きました。今後も地域に根付いた大学を目指し、鴨川の皆さまと交流できる機会を楽しみにしていきたいです。また、本学の大学祭を未経験の皆さま、来年こそ各部活動が出店する「学生手作りの模擬店メニュー」を召し上げにいらっしやいませんか!? また病院からのご協力で、様々な健康チェックのブースを設置して頂き、今年もチェックを楽しみに来場して下さった方も多くいらっしゃったようです。この場をお借りして、ご協力いただきました病院・関連事業の皆さま、どうもありがとうございました。本学の学生を、今後も温かい目で見守って頂ければ嬉しく思います。



亀田医療大学大学祭の様相

「地域医療連携に感謝」 - K棟8階・HCU師長 村川 真澄 -

皆様こんにちは。私は亀田総合病院のK棟8階病棟・HCU師長として勤務しています。K棟8階は内科病棟であり内科と付く診療科がほとんど入院するため「なんでも内科病棟」だねとスタッフとはよく話をしています。患者様は高齢者が多く、退院後も介護支援が必要な方が入院されています。患者さまが退院後に困らないよう退院支援を週1回MSWとのカンファレンスで行っています。退院支援で以前は人工呼吸器装着している患者様の受け入れ病院を探すことが困難でしたが、最近MSWさんや地域連携室の皆様によってスムーズな退院調整ができています。10月に当病棟の患者様を受け入れて頂いた病院のスタッフの皆様と地域医療連携交流会でお会いすることができました。転院した患者様のことをお聞きすることができ、またスタッフの皆さんともお話をすることができ、身近に感じてうれしい気持ちになりました。いままです、そういう機会がなかったので今回のことで、地域と繋がっていると実感することができました。これも地域医療連携室の皆様のご尽力のおかげと感謝いたします。これからもよろしくお願ひいたします。

第4回地域医療連携交流会ご報告

2013年10月15日(火)に第4回地域医療連携交流会を亀田総合病院にて開催いたしました。「地域で抱える現状と今後の展望」についての講演、その後懇親会を行いました。総勢127名以上の方にご参加頂き大変盛況な会となりました。ご参加された3名の方に当日の感想をお書き頂きましたのでご紹介いたします。今後もこういった機会を通し、皆様との交流を図りたく考えております。宜しくお願ひいたします。

交流会に参加して

腫瘍内科 平松 綾子

私がこの4月から所属する腫瘍内科の患者さんには、長期加療中に急性対応が必要となり入院される方が多くありますが、その後は、自宅に戻ったり、施設に移ったり、慢性期の病院へ転院したりすることになります。半年ほどしか経っていませんが、すでに多くの地域の施設や医療機関にご紹介させていただきました。そのなか、この安房地区では患者さんが安心できる医療体制ができているのか、と度々考えるようになりました。また、亀田総合病院の役割は何なのか、うまく機能しているのか、地区の中で他の医療機関は適当に配置され、機能しているのか、医療機関をつなぐ道路や交通は整備されているのか、医療連携はどの程度できているのか、実際に顔を合わせ、声を聴く機会はあるのか、と、この会に出席し、他施設、医療機関の方々と実際お会いしお話しする機会を持ち、上の疑問の一部を理解し始めることができました。会の開催に尽力された方々に感謝するとともにこれを私の始まりとして、今後もこのような会を継続させ、安房地区の医療が安心できるものになるよう協力して活動していこうと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。



安房・外房医療チームの一翼として

医療法人SHIODA事務次長 野澤 章浩

十年に一度の大型台風が迫る悪天候にも拘らず、医療・福祉に携わる沢山の方々が交流会に出席されているのを拝見し、地域の方々の強い思いを肌で感じる事が出来ました。前回に引き続き今回も参加させて頂き、回を重ねる毎にとっても素晴らしい会になっていると感じております。今回は、先生方のご発表ともあり、医師の視点から見た地域の現状を知ることが出来とても勉強になりました。

塩田病院が位置する勝浦の現状及び、塩田病院の問題点につきましては、飯田医師より発表させて頂いた通りとなります。他院の先生方のご発表を聞き進めるにつれ、安房・外房地区共通の問題を、それぞれの医療機関が抱えていると感じました。非常に根の深い問題を抱えているこの地域において、一医療機関の努力だけでは、到底解決出来ない状況であると実感致しました。安房・外房地域の医療機関が互いに連携し合い、チームとして地域全体を支えていかなければ未来は無いのではないかと痛切に感じました。

安房・外房医療チームの一翼として、微力ながら当塩田病院も、地域を支えていければと考えております。今後ともご指導・ご鞭撻の程何卒宜しくお願ひ申し上げます。

交流会に参加して

総合相談室 小川 千尋

今回、地域でご活躍されている先生方から「地域で抱える現状と今後の展望」というテーマで興味深い貴重な話を拝聴しました。

赤門整形外科 宮川院長からは、館山地域の医療関係の歴史と、赤門グループの歴史と発展の経緯について、そして前安房医師会長としてのお立場から、館山地域の救急医療についてのお話を伺いました。宮川先生ならではのお話でした。

中原病院 関口副院長からは、高齢者独居・通院困難者が多い、この地域のニーズに応えようと事業を拡大し、今後も地域住民との積極的な関わりを目指しているというお話を伺いました。

塩田病院 飯田脳神経外科部長からは、勝浦市の特色と山武・長生・夷隅医療圏の救急医療の実態についてのお話でした。救命救急センターがなく、救命救急医がないこと、救急搬送に時間がとてかかる地域が多いなどの課題を提示されていました。

永津さいとう医院 木元院長からは、診療所の医師の仕事や、在宅医療について、そして驚いたことに「気象予報士」でもある木元先生ならではの視点で、岬地域周辺の今後についてのお話をされていました。

今回、お話をしてくださったどの先生も、地域住民のことを考えて、その地域で運営する医療機関として、今できる最大限の努力をされていていっしょと感じました。話の中でも「救急医療の崩壊＝地域医療の崩壊」とありましたが、現時点でも当院のベッドが満床であり、やむを得ず救急制限を行わなくてはならない事態が起きています。地域住民に安心した医療提供をするためにも、今自分たちのできる事を精一杯行うことが必要だと感じました。そして、1つの病院では難しいことでも医療機関同士が連携することで、成し遂げられることもあるのではないかと思います。交流会という機会を利用し、話し合いがし易い関係性を築いていくことが大切だと感じました。

